

2019年7月

空間ワークショップへのお誘い

各位

2003年以来連続して実施してきた空間ワークショップという活動は、2019年5月21日の関東甲信越支部支部役員会において「支部事業」として実施していくことが決まりました。

そこで、この度、継続的に実施して来た空間ワークショップという活動を実施・サポートするために、地域会の枠を超えた横断的プラットフォームを実態に即して整え、「空間ワークショップ」の実施及びさらなる発展に寄与したいと考え、「空間ワークショップフォーラム」という活動基盤を組織しました。今まで空間ワークショップを実施してきた地域会の関係者のみなさまにご理解いただき、開催に関するスケジュール管理、ファシリテーターの募集・調整、資材の保管・補充・搬送など、これまで各担当地域会がそれぞれその担当地域で行なってきたことの一元管理を行い、実施主体である小学校および関係団体と、これまで以上にきめ細かい連携をとり、この活動がさらに継続・発展していくものと考えます。

空間ワークショップフォーラムは、これまでこの活動に携わってきた地域会からの7名をコア・メンバー、ファシリテーターとして空間ワークショップを支えていただいた建築家のみなさまをメンバーとして新たなステップを進めていきたいと考えております。それとともに、活動に関心のある多くの建築家にもご参加いただきたく思っております。

なお、2018年2月10日に実施した空間ワークショップの記録動画が下記URLからご覧になれます。

[https://www.facebook.com/n2taka/videos/543506679420446/?modal=admin\\_todo\\_tour](https://www.facebook.com/n2taka/videos/543506679420446/?modal=admin_todo_tour)

みなさまにおかれましては、ここに掲げられました趣旨をご理解いただいた上で、この空間ワークショップフォーラムにご参加いただきたく存じます。

コア・メンバー（五十音順）：

小池正人（中野地域会）  
桜本将樹（神奈川地域会）  
鈴木和貴 | 事務局（城北地域会）  
高田典夫 | 代表（三多摩地域会）  
長井隆志（世田谷地域会）  
藤沼 傑（神奈川地域会）  
山本和彌（三多摩地域会）

<連絡・問合せ先>

高田典夫

関東甲信越支部 空間ワークショップフォーラム／三多摩地域会 代表

有限会社 アトリエテン

〒180-0006 武蔵野市中町2-7-1

mobile 090-3912-5620 e-mail : norio.takata@gmail.com

## ■空間ワークショップとは何か

空間ワークショップは、2種類の長さ（1,800mm と 900mm）の材木とゴムバンドだけを使い、6～10人の子どもたちがグループで協働してアイデアを出し、自分たちが入ることができる「いえ」をつくり、みんなで校庭に「まち」をつくろうというものです。

目的：

1. 未来を担うこどもたちの環境・建築教育
2. 造形の具体的手法の研究・普及
3. 建築家としての地域貢献／学校教育への参加

効果：

1. 建築環境・空間を自らつくり、体験することの楽しさを学ぶ
2. 骨組みの力学を体で感じ取り、自然界の数学的法則に触れる
3. 組立・解体・片付けという共同作業を通じ、他者と協力する能力を養う
4. 作品の解体と使った部材のリサイクルを通じ、エコロジー志向の心がけを学ぶ
5. 街並みの調和に対する意識を生み、またそれを皆で共有することの大切さを知る
6. まちや建築の魅力を体感させ、明日の美しいまちづくりの担い手を養成する

ねらい | 育てたい力

1. 「人」＝建築家協会の方、「もの・自然」＝木材を対象にして、建てたい家や活動を自らの課題として捉え、友達と協力して実践する力を育てる。
2. 木材を扱うことによって、自ら考え主体的に判断し、組立てたり試行錯誤したりして、問題を解決する力を育てる。

この活動は、2003年に日本建築家協会[JIA]関東甲信越支部中野地域会で考案され、2003年10月4日に中野まつりの一つのイベント「公園にまちをつくろう！」として初めて実施されました。

その後、2004年8月27日に開催された東京都図画工作研究会城西大会で発表した際に、武蔵野市立の小学校の先生方がこの活動に関心を持ち、授業としての空間ワークショップの可能性について、相談を受け、あらためて授業としての企画を先生方と協議し、2005年11月に武蔵野市立境南小学校、2005年12月に武蔵野市立桜野小学校、2006年3月に武蔵野市立第三小学校で実施された空間ワークショップから「授業としての空間ワークショップ」が始まり、その後それぞれの担当の先生方との討議などを踏まえて現在の方式に収敛してきました。

## ■活動実績および実態

現在実施している「空間ワークショップ」は3つのパターンに分けられます。

### a. 「授業としての」空間ワークショップ | 現在、メインで実施しているタイプ

主催は、各小学校で、ファシリテーターとして参加している僕たち建築家は、学外招聘講師ということになります。

### b. 地域会が参加者を集めて実施する空間ワークショップ | 「中野まつり」などでの実施タイプ

各地域会が主催ということになります。

### c. 各期間・団体が企画し実施する空間ワークショップ | 「東大和市中央公民館での夏休みイベント」のようなタイプ

主催は、それぞれの機関・団体に、僕らは協力者という位置付けとなります。

会場は学校でも授業としてではないもの「おやじの会」が実施するようなタイプは、ここに入ります。

主催はそれぞれ異なりますが、僕ら建築家は、どの場合も、イベント運営の責任は担っています。

別添の「空間ワークショップ活動データ」をご覧ください。お分かりになるように、この活動はすでに地域会の枠を超えて実施されています。

最近では毎年10~20校でこの空間ワークショップを実施して、すでに15年目に入っていますので、参加した小学生は12,000人を超え、少なくとも1,000軒以上の「いえ」が建ち並んだこととなります。

この数にもびっくりしますが、それよりもっと驚くことは、同じものができないということです。

2005年から始まった授業としての空間ワークショップの実施には、時間割の調整など担当の図画工作の先生だけでは実施することは難しく、校長先生はじめ関係者の理解と協力が必要です。中心となって動いていただいている図工科の先生が移動され、今まで実施していた地域を離れてしまい、別の地域会担当地区になってしまうという事例も出ていたりして、地域会という枠を超えたサポート体制が必要でした。

## ■組織の運営について

そこで、継続的に実施してきた空間ワークショップという活動を実態に即して実施・サポートするために、地域会の枠を超えた横断的プラットフォームを整え「空間ワークショップ」の実施及びさらなる発展に寄与したいと考え、「空間ワークショップフォーラム」という活動基盤を設立しました。

開催に関するスケジュール管理、ファシリテーターの募集・調整、使用資材の保管・補充・搬送など、これまで各担当地域会がそれぞれその担当地域で行ってきたことを一元管理ができるようにすることで、実施主体である小学校および関係団体と、これまで以上にきめ細かい連携がとれるようになり、この活動がさらに継続・発展していくことを目指しています。